

初等・中等・高等教育における 教育DXの現状と課題に 関する調査報告書

eラーニング戦略研究所
eLearning Strategy Research Institute

目次

調査概要

P.4

サマリ

1. 小学校は教材DX(81%)、大学は課題・授業配信DX(84.4%) が先行 P.7
2. 74%がDX推進に賛成。“業務効率化”に高い期待 P.8
3. 最大の壁は“教員のリテラシー格差”。体系的研修と包括支援が急務 P.9

調査結果

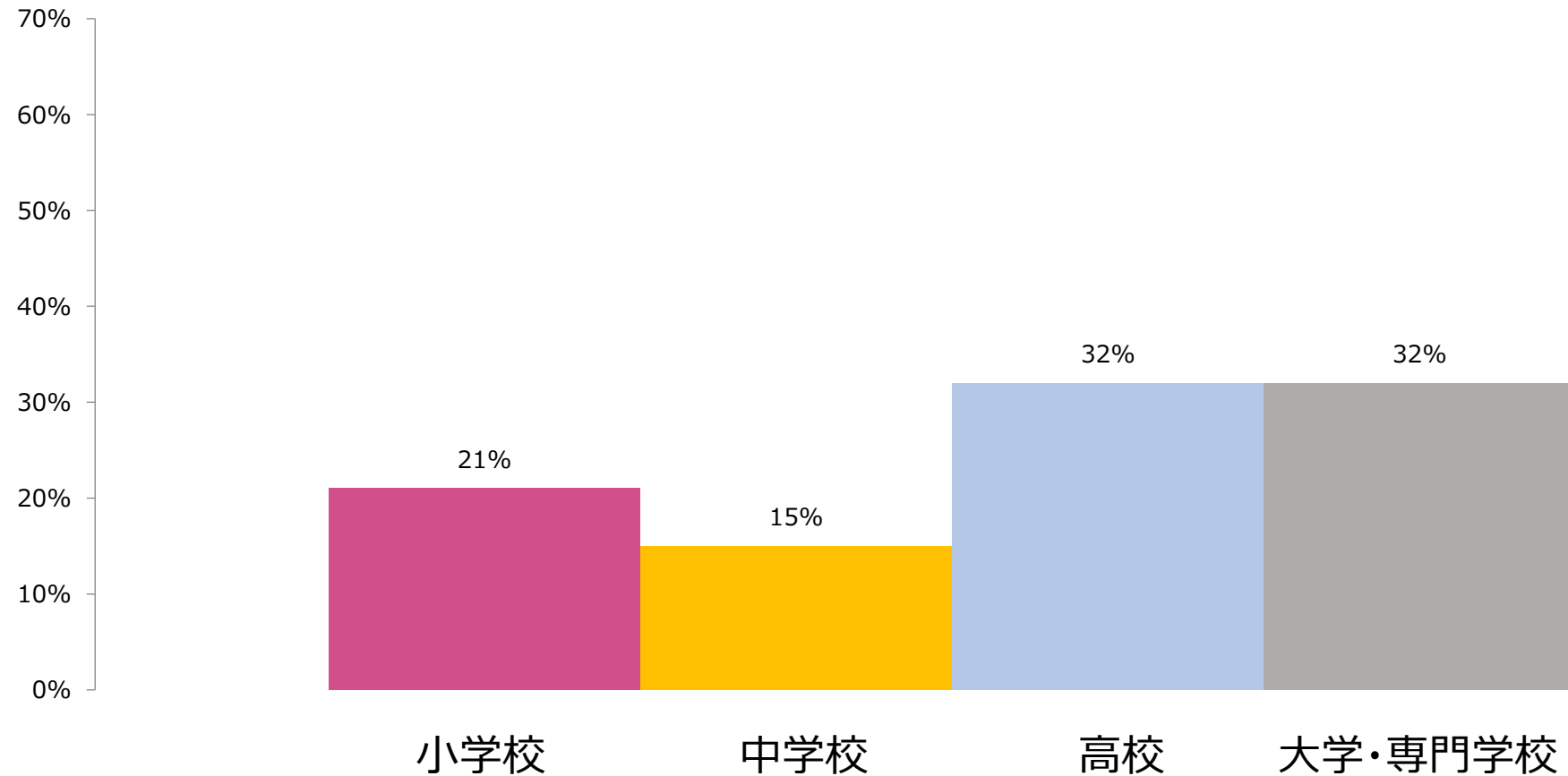
P.11

調査概要

調査概要

調査目的	初等・中等・高等教育におけるDX推進の取り組み状況や課題を調査し、必要な施策を探る
調査手法	アンケート専門サイトを用いたWebアンケート調査
調査期間	2025年7月23日～7月24日
調査対象者	教育DXに取り組む全国の小・中・高校、大学、専門学校の教職員 (校長・教頭、教員、事務職員)
有効回答数	100名
実施主体	eラーニング戦略研究所

回答者属性（学校種別）



サマリ

1. 小学校は教材DX(81%)、大学は課題・授業配信DX(84.4%) が先行

- ① 教育DXを進める学校では様々な取り組みが行われており、学校種別で異なる成果と課題が浮き彫りになった。
- ② 全体として、授業領域では、教材（74%）、レポート・課題（58%）、授業配信（55%）、校務領域では、教職員間連絡（70%）、生徒連絡（68%）、出席管理（52%）のDX率が高い。→P.11～13
- ③ 小中高では教材DXの効果実感が高く、大学・専門学校では授業配信DXの効果実感が高い。→P.16
- ④ 大学・専門学校では上記のほか、証明書発行や学生証など、より高度な校務DXも進みつつある。→P.14
- ⑤ DXによる効果事例は、「板書や印刷の削減」「オンデマンド学習の拡充」「採点・添削・集計の効率化」「連絡漏れの激減」「時短」など多岐にわたる。→P.17～21、P.24～28
- ⑥ 同じ施策でも学校種別で成果実感の差が大きいいため、それぞれの状況に応じたDXの重点化が有効と考えられる。

2. 74%がDX推進に賛成。最も期待されるのは“業務効率化”

- 1 全体の74%がDX推進に賛成。特に小学校での意欲が高い。→P.29
- 2 推進背景は業務効率化（88%）が圧倒的多数。教育の質向上（35%）、個別最適化学習（29%）を大きく上回る。→P.34
- 3 業務効率化への期待は学校種別を問わず高い（小学校90.5%、大学・専門学校96.9%）。加えて、大学・専門学校では教育の質向上（46.9%）への期待値も高い。→P.35
- 4 生成AIの活用希望は定量では限定的（20%）だが、自由記述では「AI活用を全学に広げたい」「教育現場で有効活用」など具体的な意欲が見られた。→ P.32,P.40
- 5 以上の結果より、教育現場でのDXは、まず業務効率化で価値を創出し、その後に教育効果（学習成果・個別最適化）を追求・拡張する中長期的な取り組みが現実的な道筋と考えられる。

3. 最大の壁は“教員リテラシー格差”。体系的研修と包括支援が急務

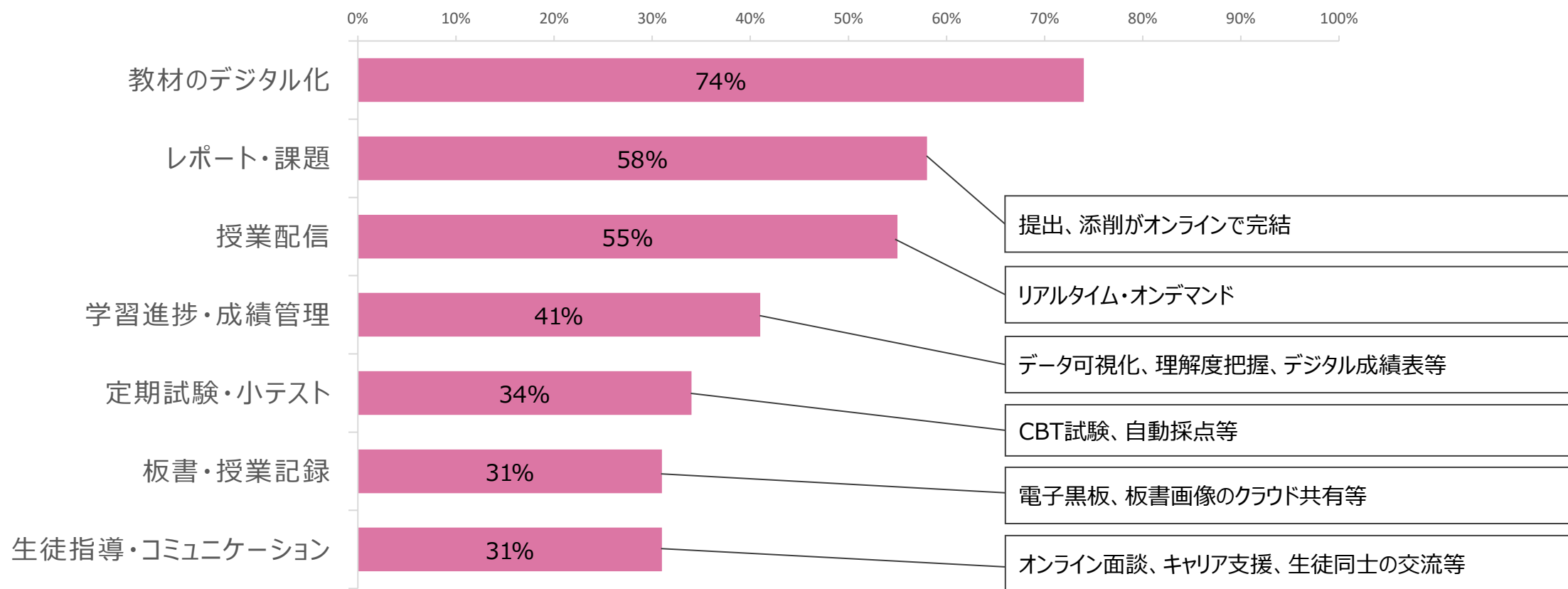
- 1 DX推進の阻害要因は、教員間のリテラシー格差（50%）、現場の負担増（47%）。→P.36
- 2 端末トラブル・更新対応（40%）、インフラ・機器不足（37%）、生徒家庭環境による格差（21%）といった技術的課題や環境要因も大きい。→ P.36
- 3 自由記述でも「ツール乱立による現場負担増」「運用ルール不備」「紙とデジタルの使い分けが必要」といった課題が指摘されている。→P.40～44
- 4 国・自治体へ求める支援のトップは財政的支援（67%）。機器更新やインフラ整備など継続的な支援も求められている。→P.39
- 5 人的課題と技術的課題が複合しており、両方を意識した包括的な支援が必要。具体的には、体系的な教員研修や実務に近いサポート体制の整備、活用マニュアルや成功事例の共有、インフラ整備と財政支援などが求められる。

調査結果

調査結果

1. 授業DXの現状

教材（74%）、レポート・課題（58%）、授業配信（55%）でDXが進んでいる。

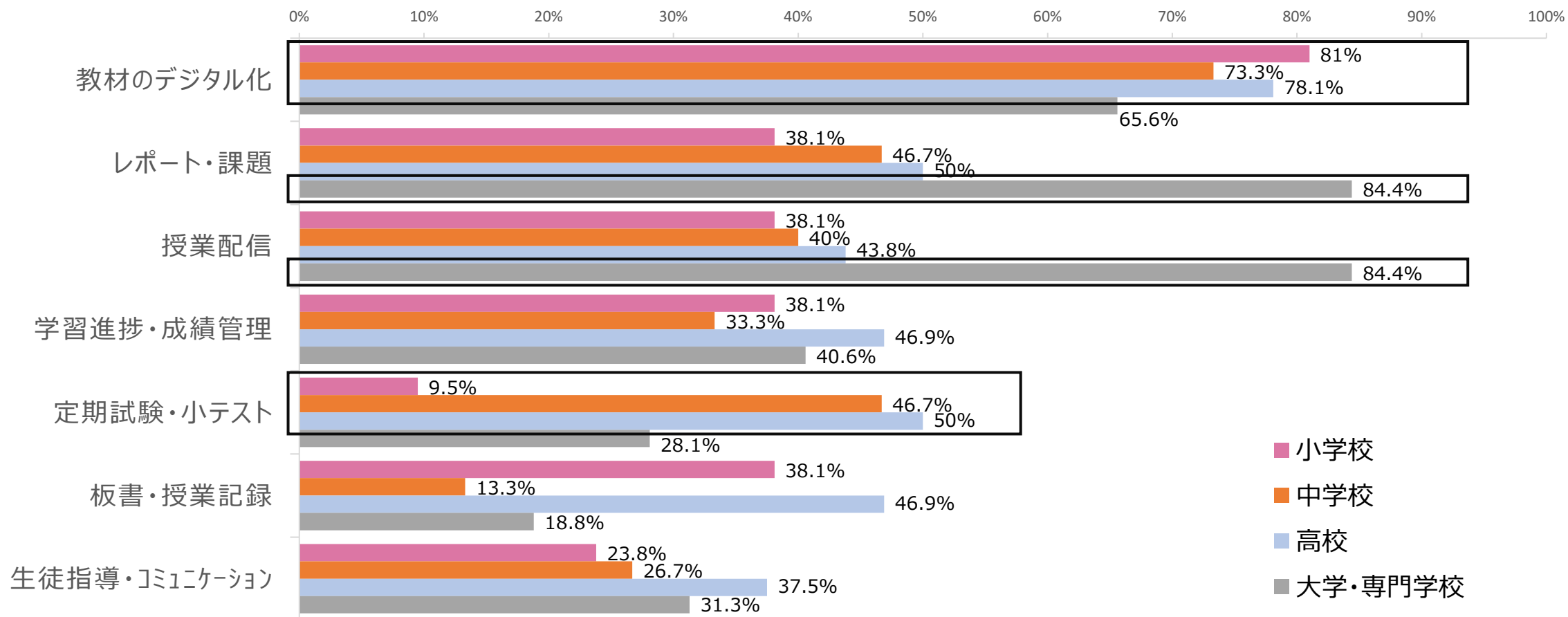


Q：あなたの学校でDX化が行われている授業分野は何ですか？（複数回答） n=100

調査結果

1-1. 授業DXの現状 学校種別

小中高は教材DX、大学・専門学校は課題や授業配信のDX化が顕著。定期試験・テストにおけるDX導入は小学校では極めて低いが高中では進んでいる。

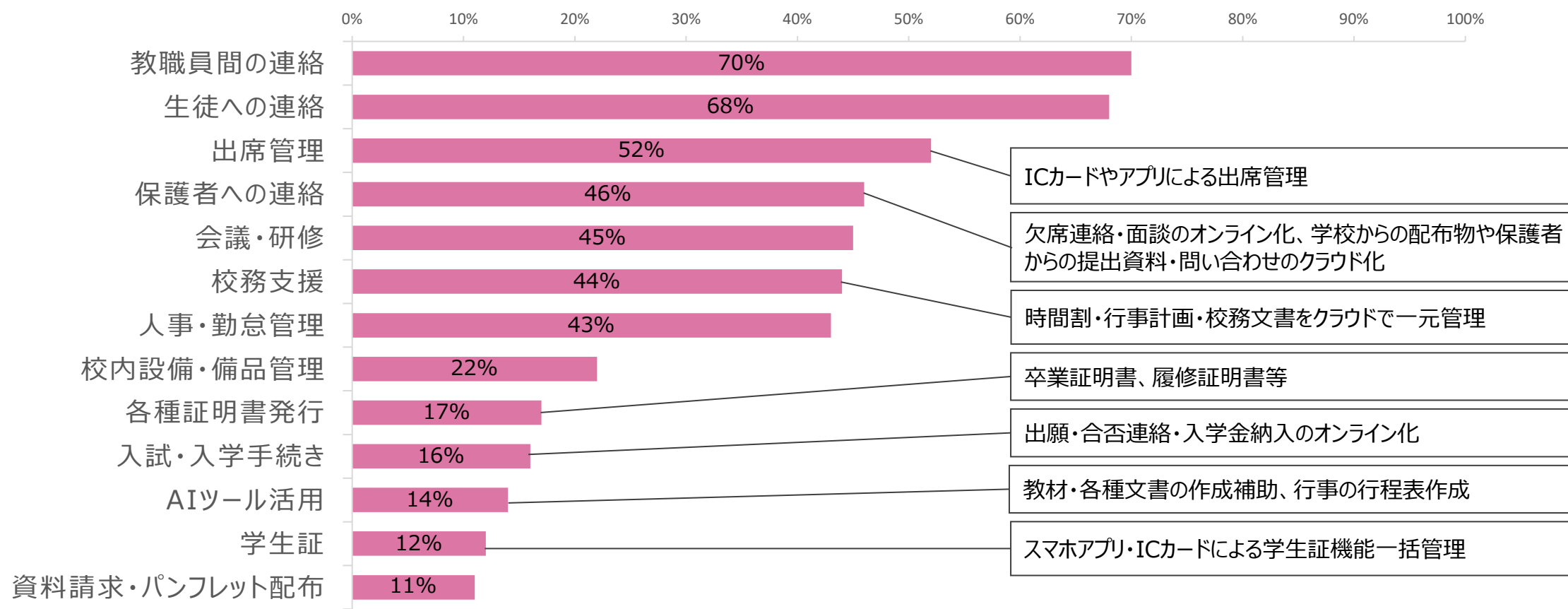


Q：あなたの学校でDX化が行われている授業分野は何ですか？（複数回答） n=100

調査結果

2. 校務DXの現状

教職員間連絡、生徒連絡、保護者連絡といった連絡業務のDXが進展。出席管理DXも半数を超える導入率。

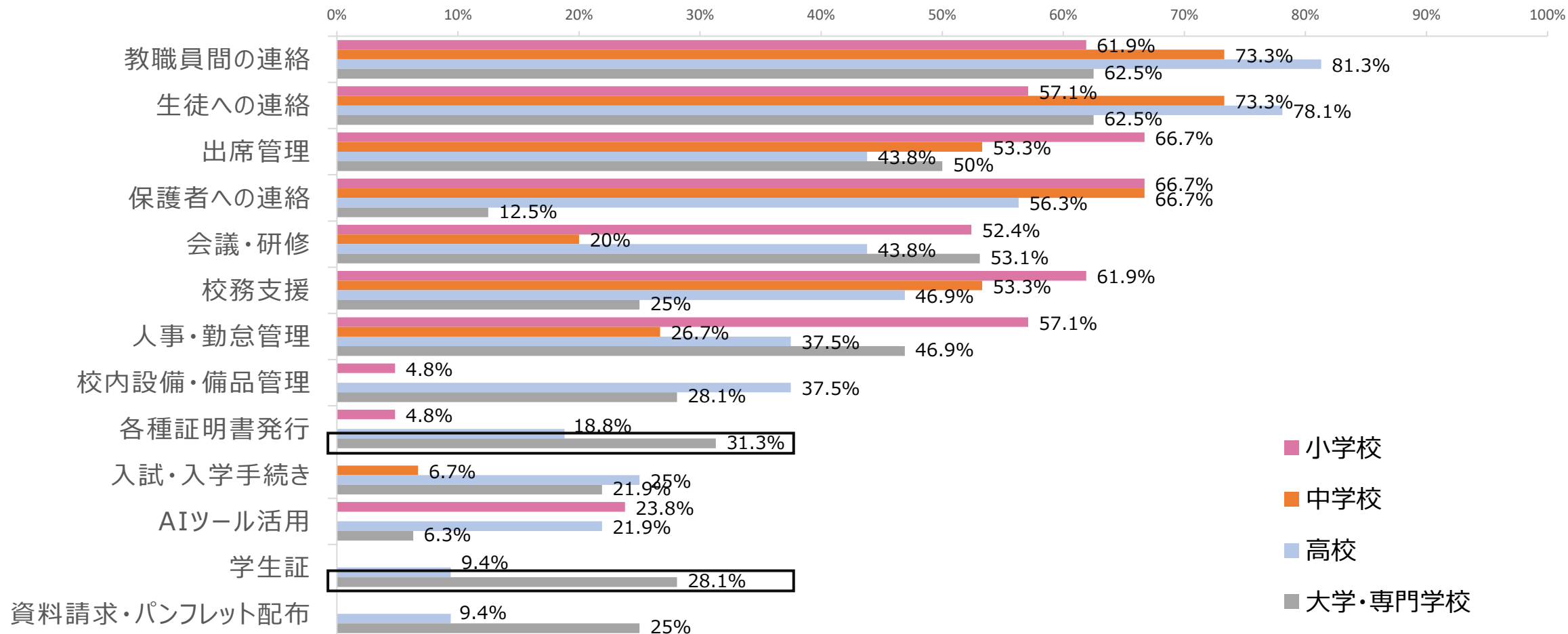


Q：あなたの学校でDX化が行われている校務分野は何ですか？（複数回答） n=100

調査結果

2-1. 校務DXの現状 学校種別

教員間連絡、生徒連絡DXは中学・高校でのニーズが高い。大学・専門学校では証明書発行や学生証のDX化も先行。

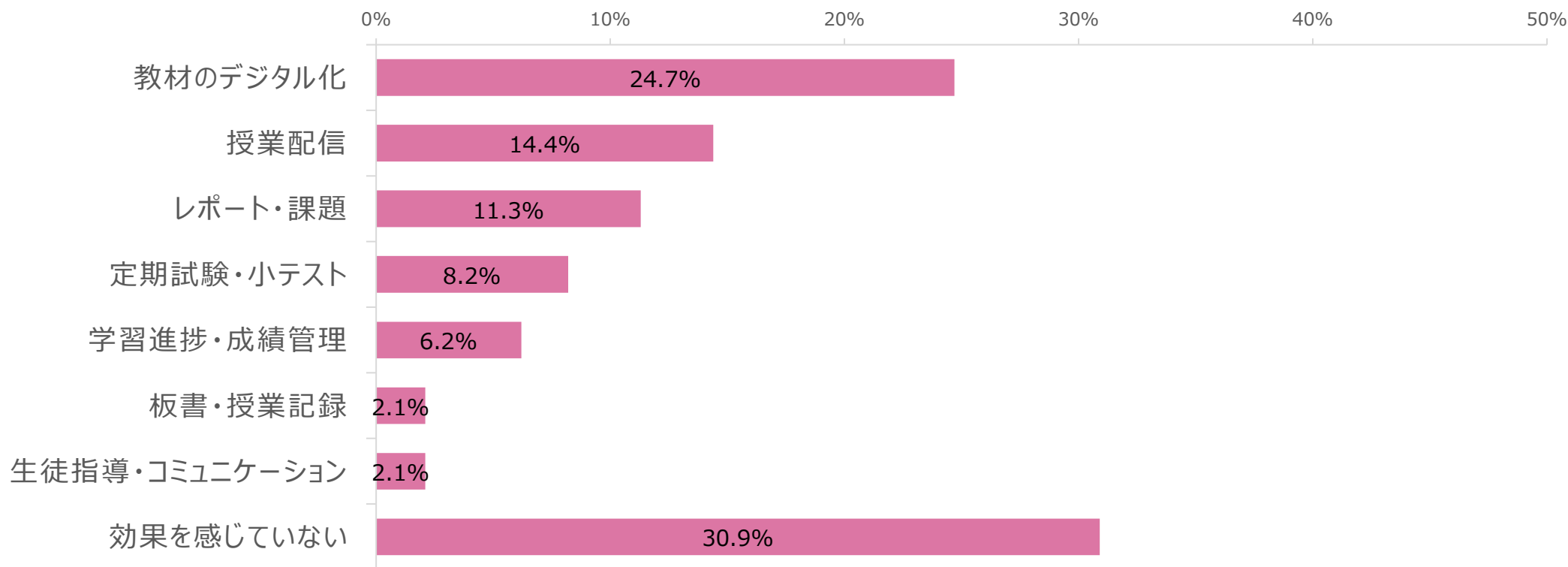


Q：あなたの学校でDX化が行われている校務分野は何ですか？（複数回答） n=100

調査結果

3. 効果的な授業DX

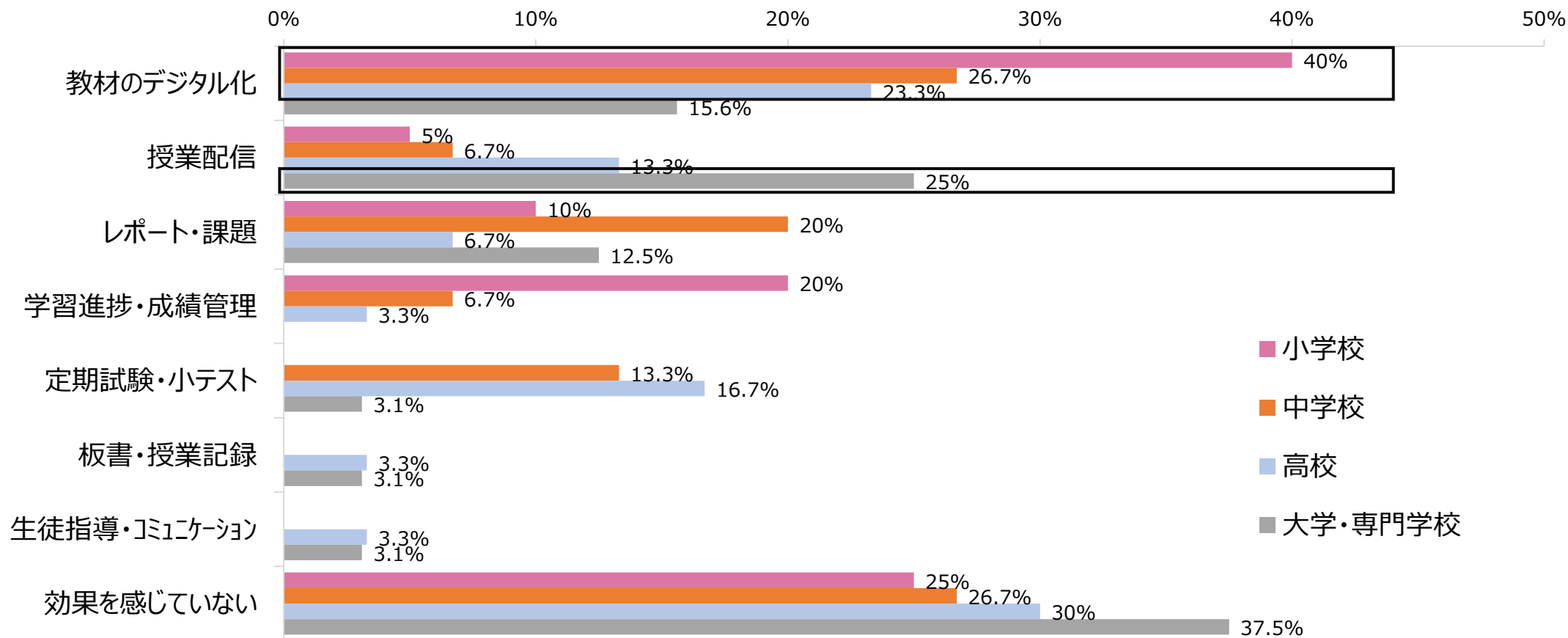
導入率トップ3の「教材」「レポート・課題」「授業配信」は効果実感も上位。



Q：特に効果があったと感じる授業DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

調査結果 3-1. 効果的な授業DX 学校種別

小中高では教材DX、大学・専門学校では授業配信DXによる効果実感が高い。



Q：特に効果があったと感じる授業DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

調査結果

3-2. 効果的な授業DXの詳細（教材のデジタル化）

- デジタル教科書の使用（小学校／教員）
- **印刷の手間や回収が楽**になった（小学校／教員）
- **準備が難しい視覚教材**（小学校／教員）
- 教材研究の時短。印刷などの準備時間の削減（小学校／教員）
- 具体物の提示（小学校／校長・教頭）
- 各学年の教材を共有することが出来るので**教材研究時間の短縮と残業削減**（小学校／校長・教頭）
- 自作教材（小学校／教員）
- 事前に作成した**資料が一斉に共有できる**（中学校／校長・教頭）
- 画像を使いやすい（中学校／教員）

- **何度も板書しなくても良い**（高校／教員）
- 紙の利用が減る（高校／教員）
- クロムブックを使用（高校／教員）
- 生徒の荷物の減少、軽量化（高校／事務職員）
- 資料集を開かせなくても資料を提示して説明できる（高校／教員）
- オンデマンド型の可能性の拡大（大学・専門学校／教員）
- Google Classroomの利用（大学・専門学校／教員）
- **印刷費が節約**できた（大学・専門学校／教員）
- コピーが不要になって手間が減った（大学・専門学校／教員）
- 資料が残せる（大学・専門学校／教員）

Q：特に効果があったと感じる授業DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

調査結果

3-3. 効果的な授業DXの詳細（授業配信）

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 教室に入れない生徒へのサポート（中学校／教員）● 欠席した生徒に確認させた（高校／教員）● 遠隔授業ができてきた（高校／教員）● 補講等（高校／教員）● 欠席の時オンライン（高校／教員）● 動画で勉強できる（大学・専門学校／教員）● 学生が繰り返し見ることが可能となった（大学・専門学校／教員）● 複数教室で実施可能。時間の融通がきく（大学・専門学校／教員）● 何度も見れる（大学・専門学校／教員） | <ul style="list-style-type: none">● 多数が受ける授業（大学・専門学校／教員）● プリント配布がなくなった（大学・専門学校／教員）● 出張に行きやすくなった（大学・専門学校／教員）● コロナ禍で役立った（大学・専門学校／事務職員） |
|---|---|

Q：特に効果があったと感じる授業DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

調査結果

3-4. 効果的な授業DXの詳細（レポート・課題）

- 時短につながる（小学校／教員）
- **集計が効率的**（小学校／教員）
- 好きな時に添削できる（中学校／教員）
- **管理が容易**になった（中学校／教員）
- **評価の蓄積**がしやすい（中学校／校長・教頭）
- 生徒はいつでもどこでも取り組めるようになった（高校／教員）
- 小テストの**配布回収採点が大変簡便**になった（高校／教員）
- 紙と電子文書との両立（大学・専門学校／教員）
- ペーパーレス化（大学・専門学校／教員）
- 課題水準（大学・専門学校／教員）

- **提出未提出の記録が楽**になり、教員の負担が減った（大学・専門学校／事務職員）

Q：特に効果があったと感じる授業DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

調査結果

3-5. 効果的な授業DXの詳細（定期試験・小テスト）

- **採点が早く正確**になり公平性が担保できる（大学・専門学校／教員）
- 採点が楽になった（高校／教員）
- すぐに結果を見せられる（高校／教員）
- 採点が楽にできるようになった（高校／教員）
- **自動採点**（中学校／校長・教頭）
- 採点ソフトの導入により**採点時間の短縮と解答状況の詳細な把握による授業改善**が進んだ（高校／校長・教頭）
- 採点が楽（中学校／教員）
- 問題作りや採点が効率的（高校／教員）

Q：特に効果があったと感じる授業DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

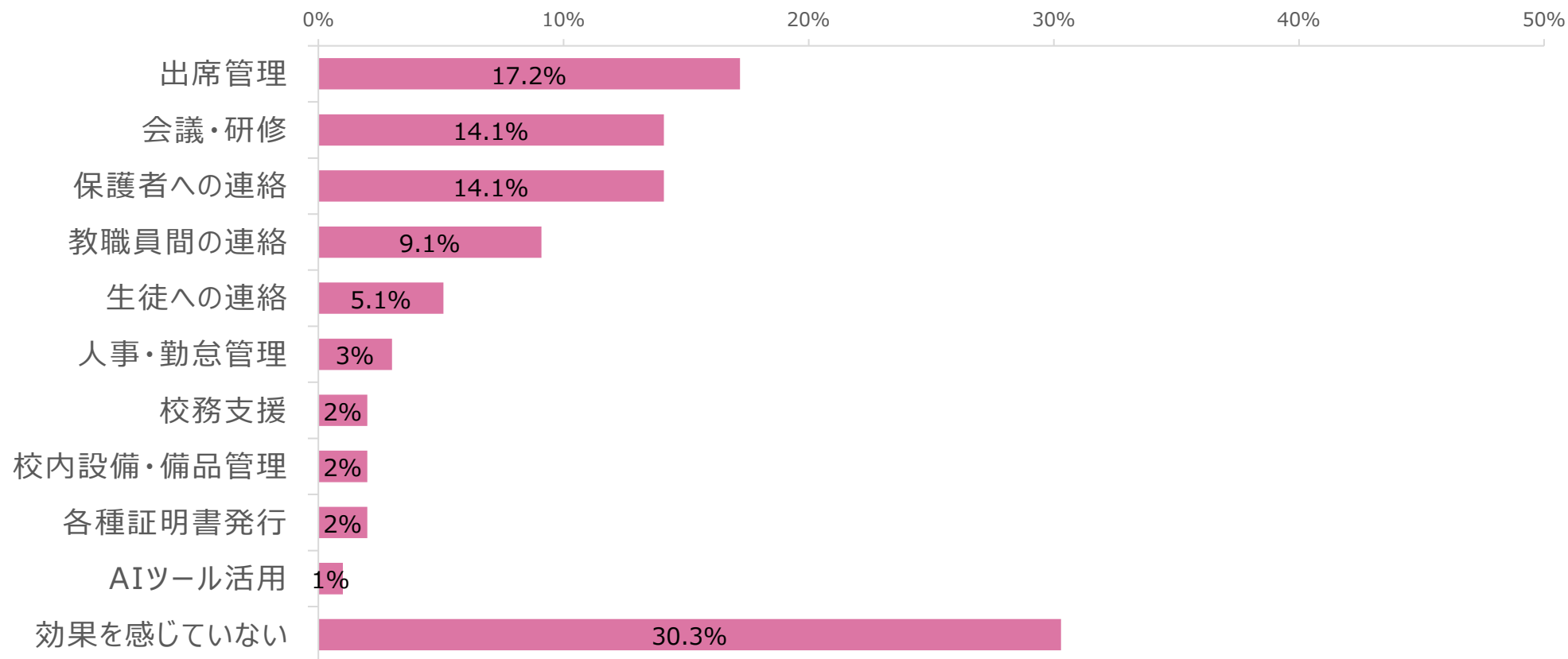
- **通知表作成が簡単**（小学校／校長・教頭）
- **テストの記録と分析**がやりやすくなった（小学校／教員）
- テストの成績を元に通知表ができる（小学校／教員）
- 管理しやすい（小学校／教員）
- **成績管理の効率化**ができた（中学校／教員）
- 記録として残りやすい（高校／教員）

Q：特に効果があったと感じる授業DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

調査結果

4. 効果的な校務DX

校務DXでは「出席管理」「会議・研修」「保護者連絡」の効果実感が高い。

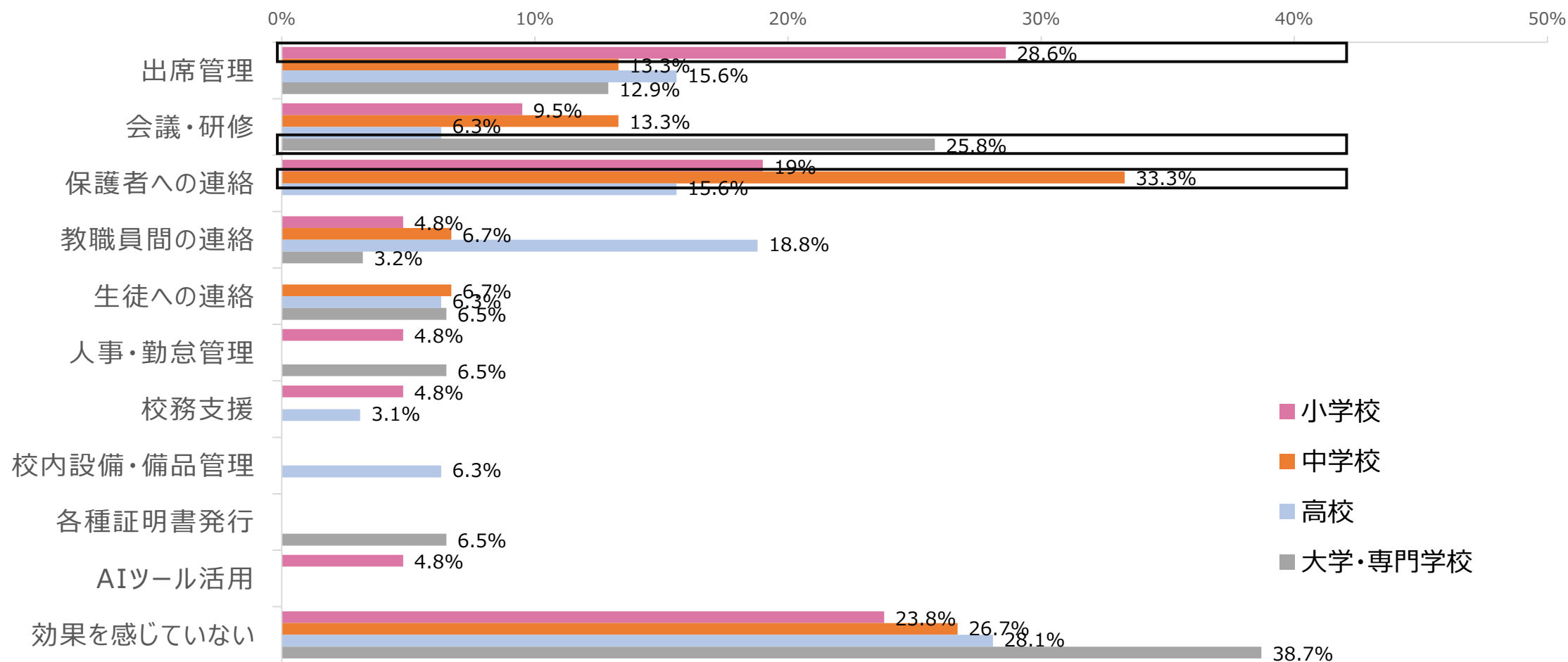


Q：特に効果があったと感じる校務DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

調査結果

4-1. 効果的な校務DX 学校種別

小学校は出席管理、中学校は保護者連絡、大学・専門は会議研修など、学校種別によって校務DXの効果実感に差異。



Q：特に効果があったと感じる校務DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

調査結果

4-2. 効果的な校務DXの詳細（出席管理）

- 時間短縮（小学校／教員）
- **電話が減った**（小学校／教員）
- 整理しやすい（小学校／教員）
- 保健室で一元管理できる（小学校／教員）
- 正確（小学校／校長・教頭）
- 在校等勤務時間がはっきりわかる、つまり正規の勤務時間が守られず、働かせ放題が一目瞭然（小学校／教員）
- 面倒がなくなった（中学校／教員）
- 欠席連絡（中学校／教員）
- 時短（高校／教員）

- **時間の節約**になった（高校／教員）
- 出席簿がなくなった（高校／教員）
- 少しは計算が楽（高校／教員）
- **集計不要**（高校／教員）
- 出席確認の時間がなくなった（大学・専門学校／教員）
- 管理が楽になった（大学・専門学校／教員）
- **システムで状況把握が可能**（大学・専門学校／教員）
- 便利（大学・専門学校／教員）

Q：特に効果があったと感じる授業DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 会議のペーパーレス化と会議時間の短縮（小学校／校長・教頭） ● 紙の削減（中学校／教員） ● ペーパーレスで保管性に優れている（中学校／校長・教頭） ● ペーパーレス化により経費削減と資料の事前回付による効率化が図れた（高校／校長・教頭） ● 移動時間もなく効率的に時間を使える（大学・専門学校／教員） ● オンライン会議ができる（大学・専門学校／教員） ● どこでも参加できる（大学・専門学校／教員） ● 在宅勤務の促進（大学・専門学校／事務職員） | <ul style="list-style-type: none"> ● 時間さえ守ればどこにいても参加できる（大学・専門学校／教員） ● 時間が短縮された（大学・専門学校／事務職員） ● 効率的になった（大学・専門学校／教員） ● 効率的に時間を使えるようになった（大学・専門学校／教員） |
|--|---|

Q：特に効果があったと感じる校務DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

調査結果

4-4. 効果的な校務DXの詳細（保護者連絡）

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 欠席連絡の負担減（小学校／教員）● いつでも連絡できる（小学校／教員）● 電話対応が減った（小学校／校長・教頭）● 学校だより等の配信（小学校／校長・教頭）● 出欠連絡がスムーズにできるようになった（中学校／教員）● 朝の多忙感がなくなった（中学校／教員）● 欠席連絡（中学校／校長・教頭）● ペーパーレス。保護者へ確実に届くスピード（中学校／校長・教頭）● ペーパーレスとともに確実な配信（中学校／校長・教頭） | <ul style="list-style-type: none">● お互いコミュニケーションが取りやすくなった（高校／教員）● 配信による連絡を行うことで確実に保護者に連絡が届くようになった（高校／教員）● 連絡がスムーズに取ることができる（高校／教員）● 隙間時間を利用できる（高校／教員）● 提出物や連絡の漏れが激減した（高校／教員） |
|--|---|

Q：特に効果があったと感じる校務DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

調査結果

4-5. 効果的な校務DXの詳細（教職員間の連絡）

- オンライン会議（大学・専門学校／教員）
- ペーパーレス（高校／教員）
- Slackでやり取り（高校／教員）
- **不必要な会議が減った**（小学校／教員）
- 自宅でも確認できる（高校／教員）
- **連絡しやすくなった**（高校／校長・教頭）
- 連絡伝達（高校／教員）
- 一気に全教員に連絡が行く（中学校／教員）
- ペーパーレス化（高校／事務職員）

Q：特に効果があったと感じる校務DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

調査結果

4-6. 効果的な校務DXの詳細（生徒への連絡）

- 担任にメモを渡さなくても生徒に連絡できるようになった（高校／教員）
- 一斉に連絡できる（高校／教員）
- 時間短縮（中学校／教員）
- 連絡漏れや連絡を確認できていないといった事例が大幅減（大学・専門学校／事務職員）
- メールの利用（大学・専門学校／教員）

Q：特に効果があったと感じる校務DXを1つ選び、詳細を自由回答でご記入ください。n=100

調査結果

5. DX推進意向

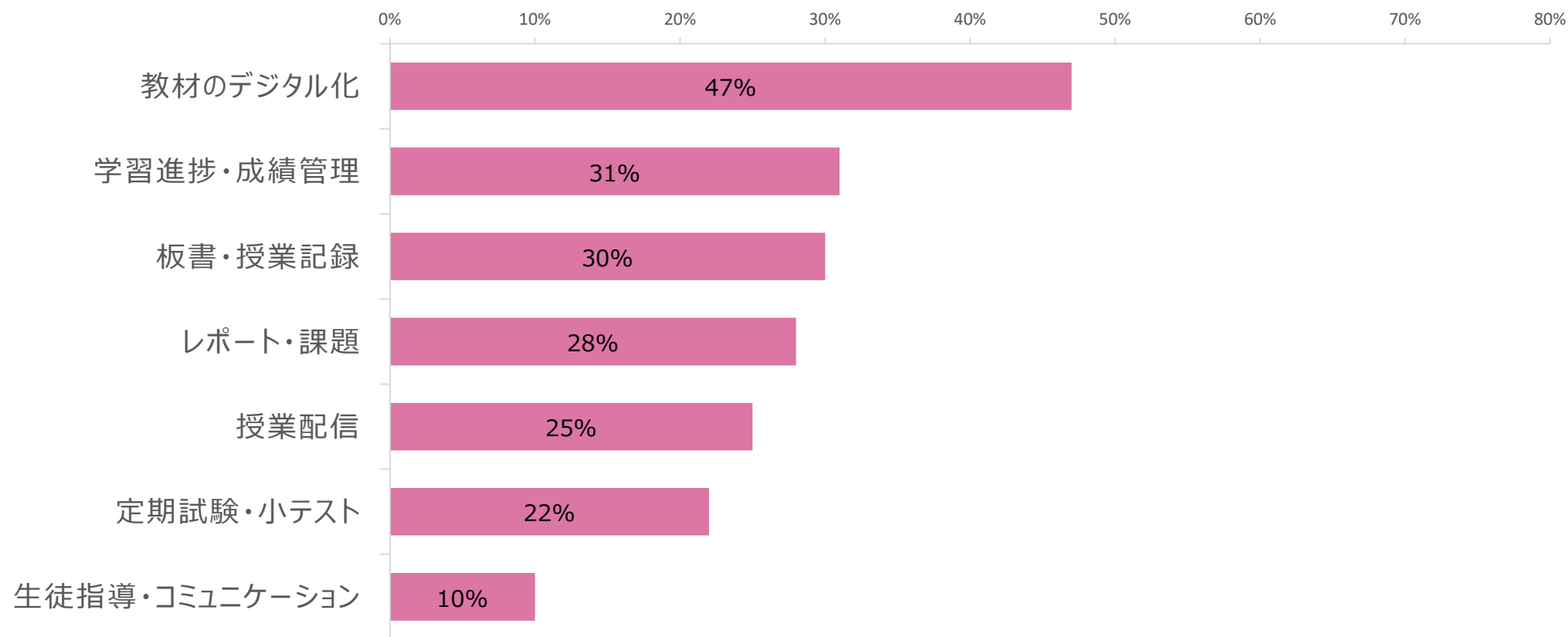
74%がDX推進に前向き。特に小学校での推進意欲が高い。



Q：今後、教育現場でDX化を進めるべきだと思いますか。n=100

調査結果 6. 推進したい授業DX

教材に次いで、学習進捗・成績管理（31%）、板書・授業記録（30%）が上位。

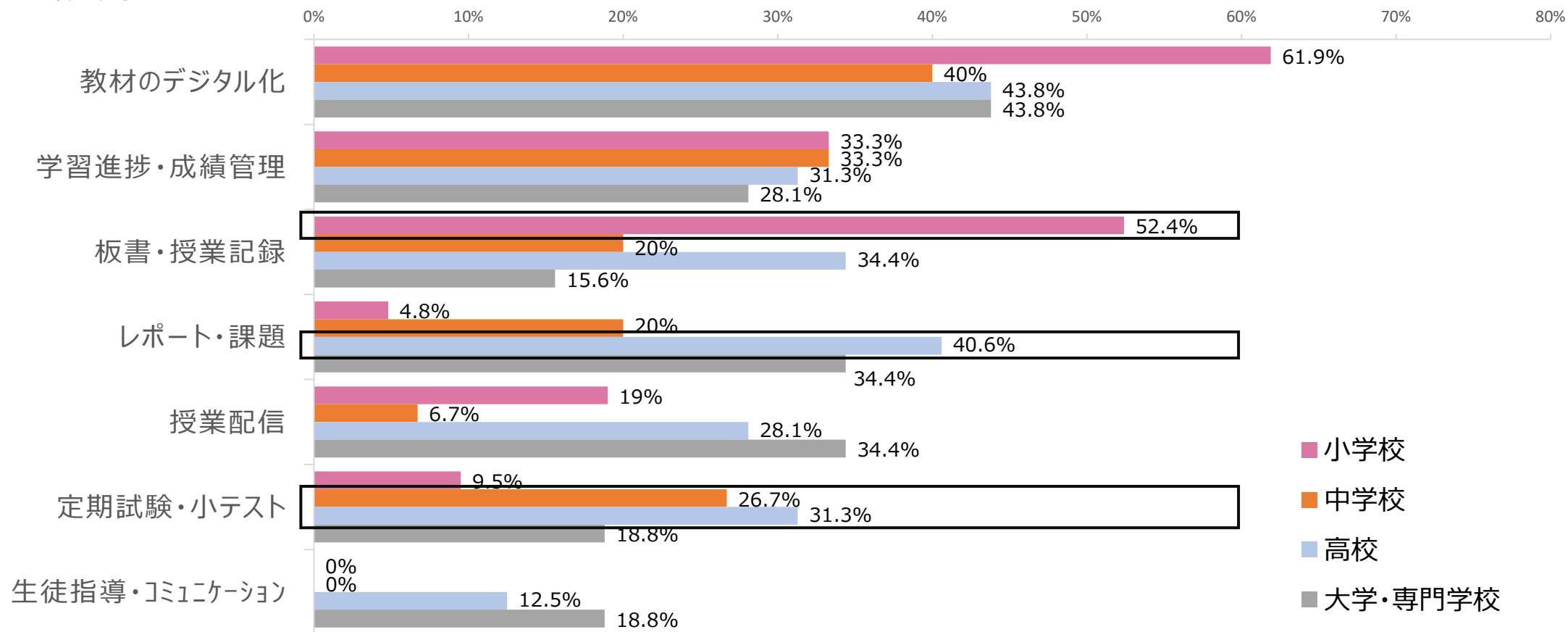


Q：今後、DX推進を特に強化したい授業分野をお答えください。（複数回答） n=100

調査結果

6-1. 推進したい授業DX 学校種別

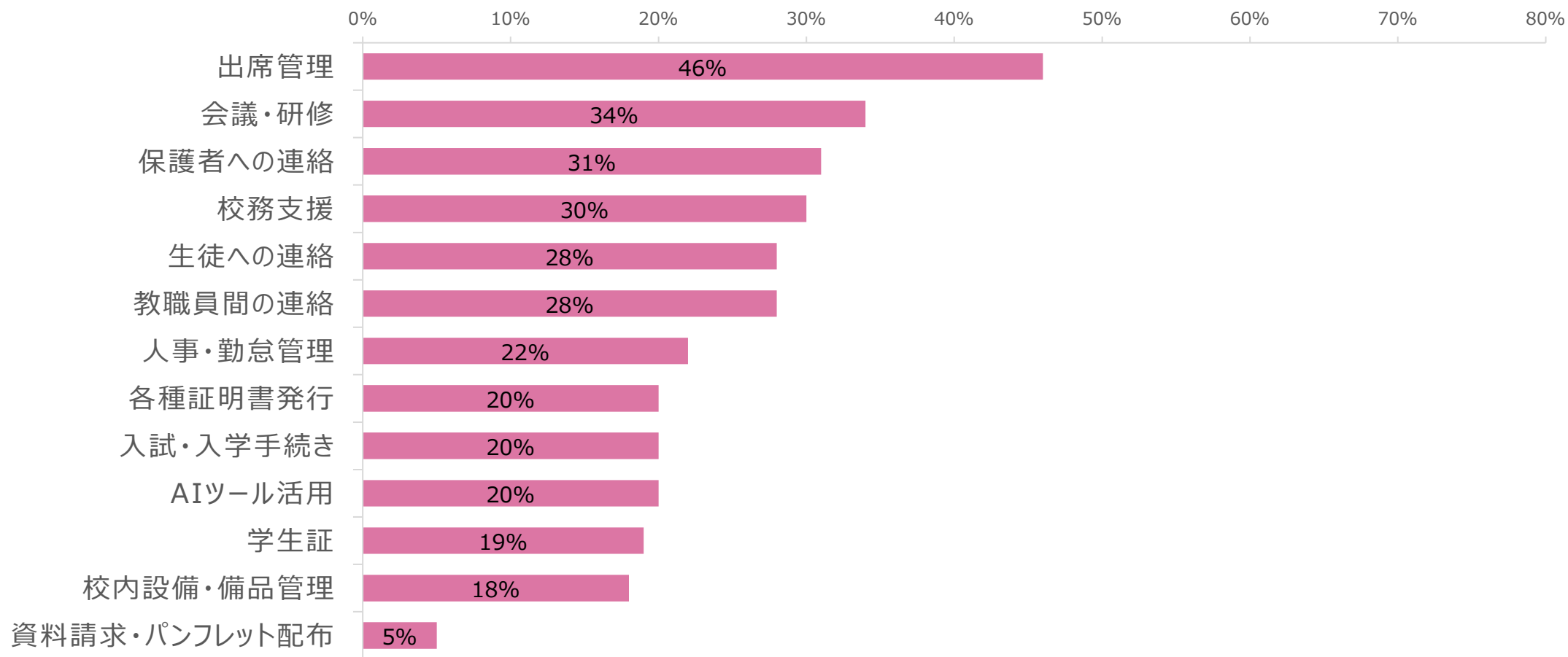
教材DXはすべての学校種別で強化項目。小学校は板書、高校では課題DXも強化対象。定期試験・テストDXは中高でニーズがある。



Q：今後、DX推進を特に強化したい授業分野をお答えください。（複数回答） n=100

調査結果 7. 推進したい校務DX

出席管理に次いで、会議・研修（34%）、保護者連絡（31%）、校務支援（30%）が上位。

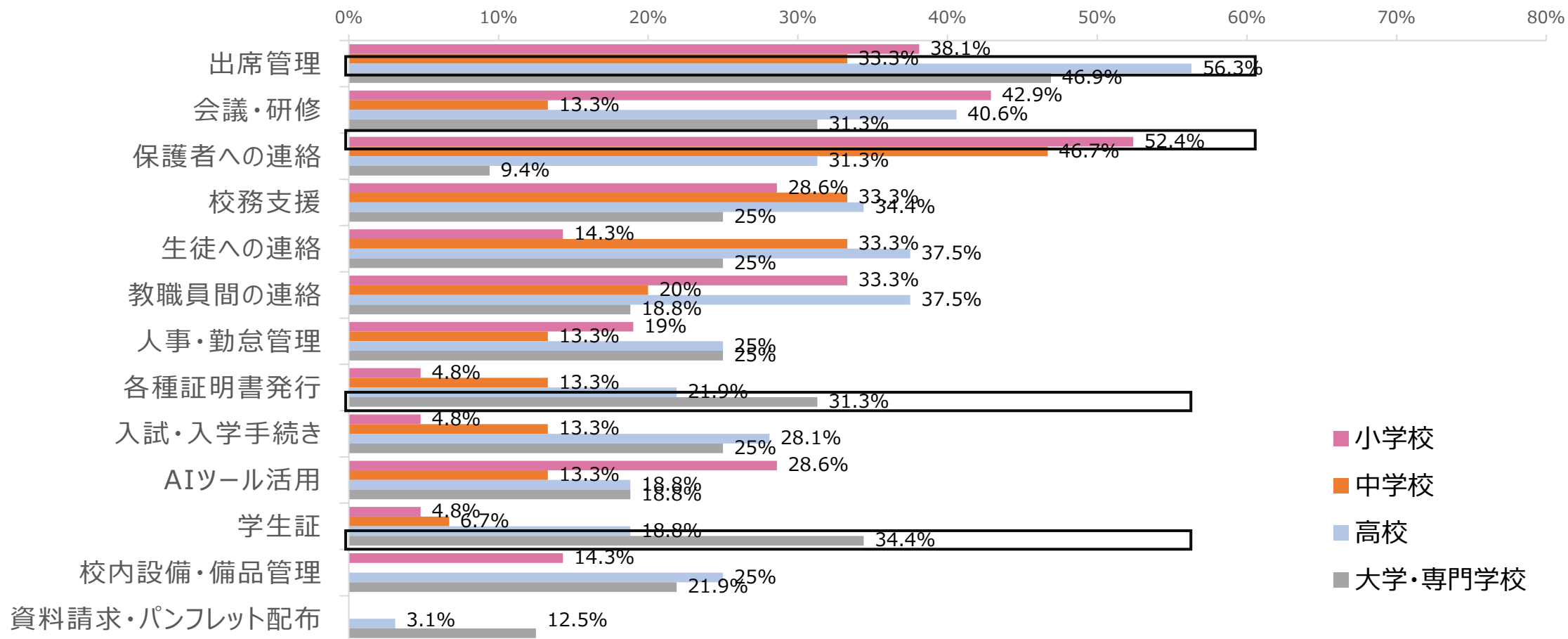


Q：今後、DX推進を特に強化したい校務分野をお答えください。（複数回答） n=100

調査結果

7-1. 推進したい校務DX 学校種別

小学校は保護者連絡DX、高校は出席管理DX、大学・専門学校は証明書発行・学生証DXへのニーズが目立つ。

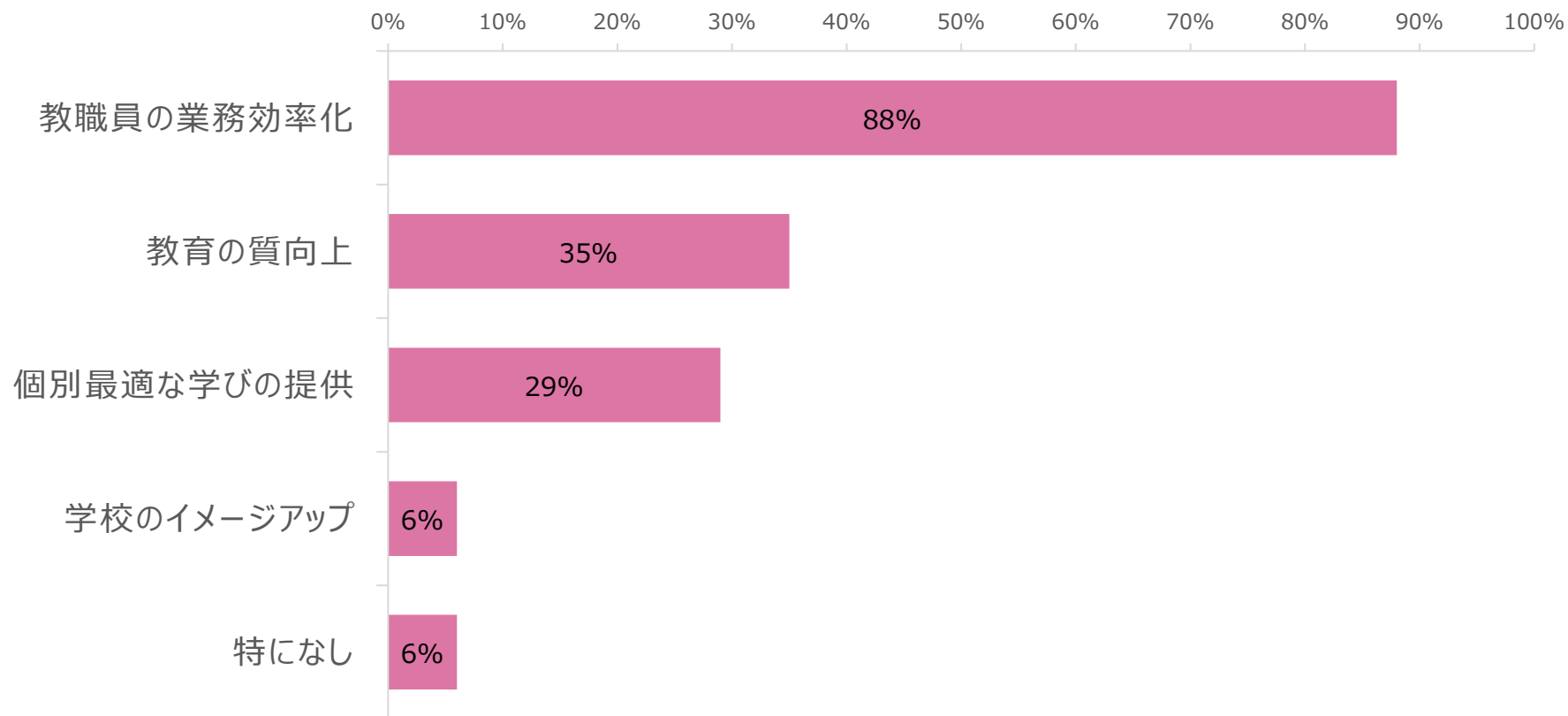


Q：今後、DX推進を特に強化したい校務分野をお答えください。（複数回答） n=100

調査結果

8. DX化で期待される効果

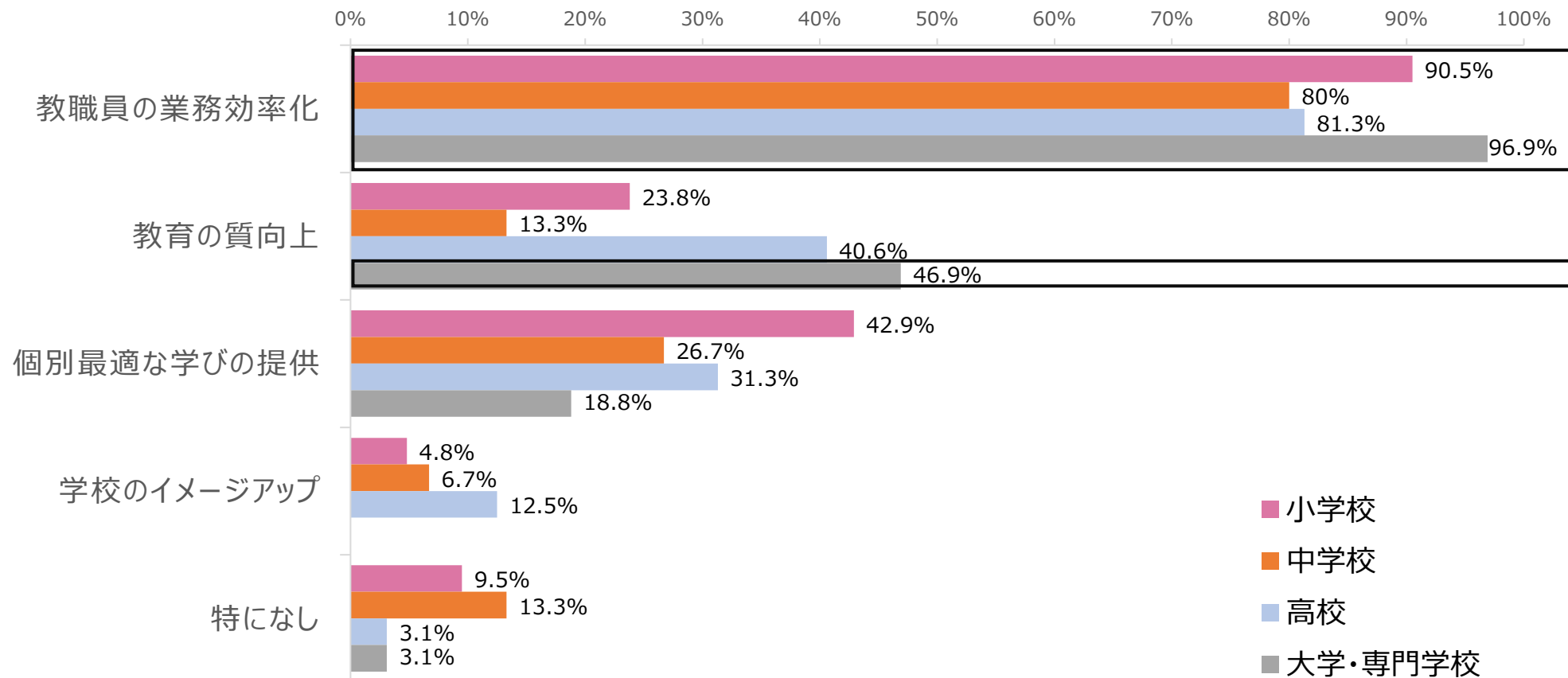
業務効率化（88%）が圧倒的多数。教育の質向上（35%）、個別最適化学習（29%）を大きく上回る。



Q：DX推進により期待できる効果は何ですか？（複数回答） n=100

調査結果 8-1. DX化で期待される効果 学校種別

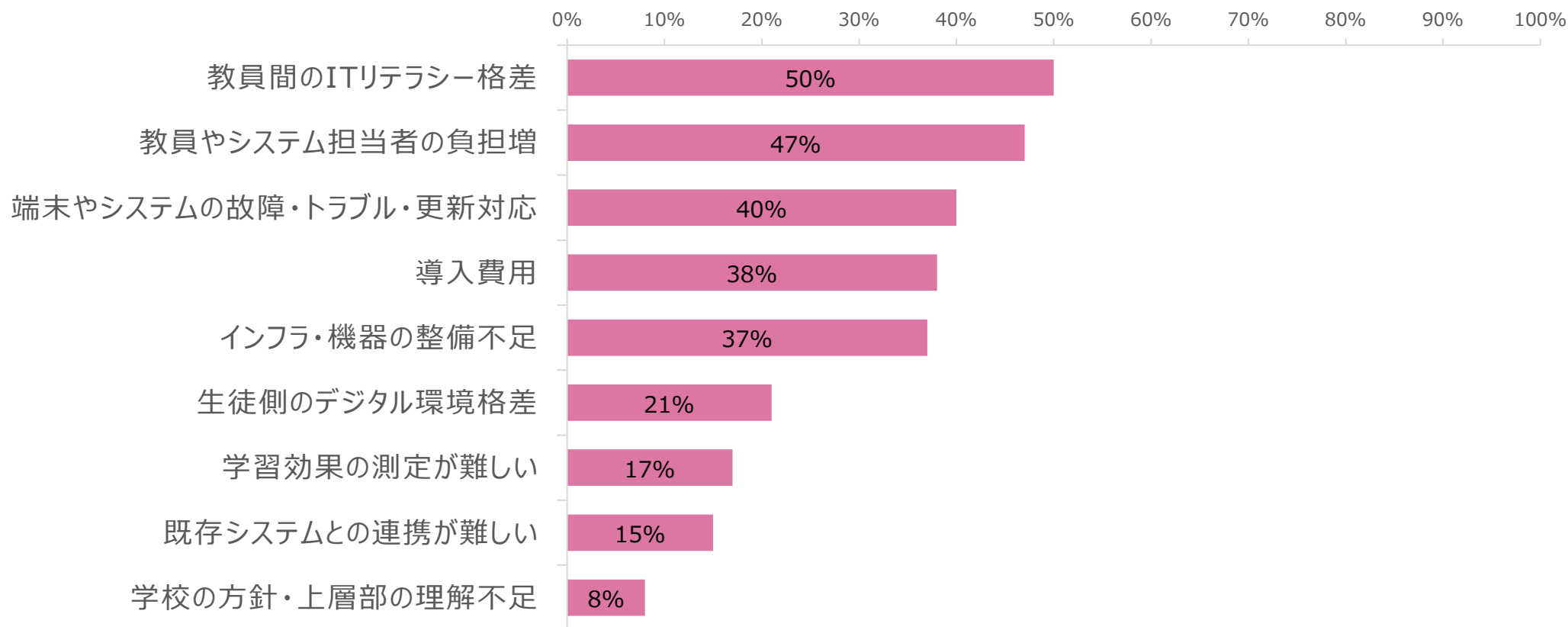
全体的に効率化重視、大学・専門学校は教育の質向上にも期待感。



Q : DX推進により期待できる効果は何ですか？（複数回答） n=100

調査結果 9. DX推進の課題

教員のITリテラシー格差（50%）や負担増（47%）など人的要因が最大の障壁。端末トラブル・更新（40%）やインフラ整備不足（37%）など環境要因も大きい。

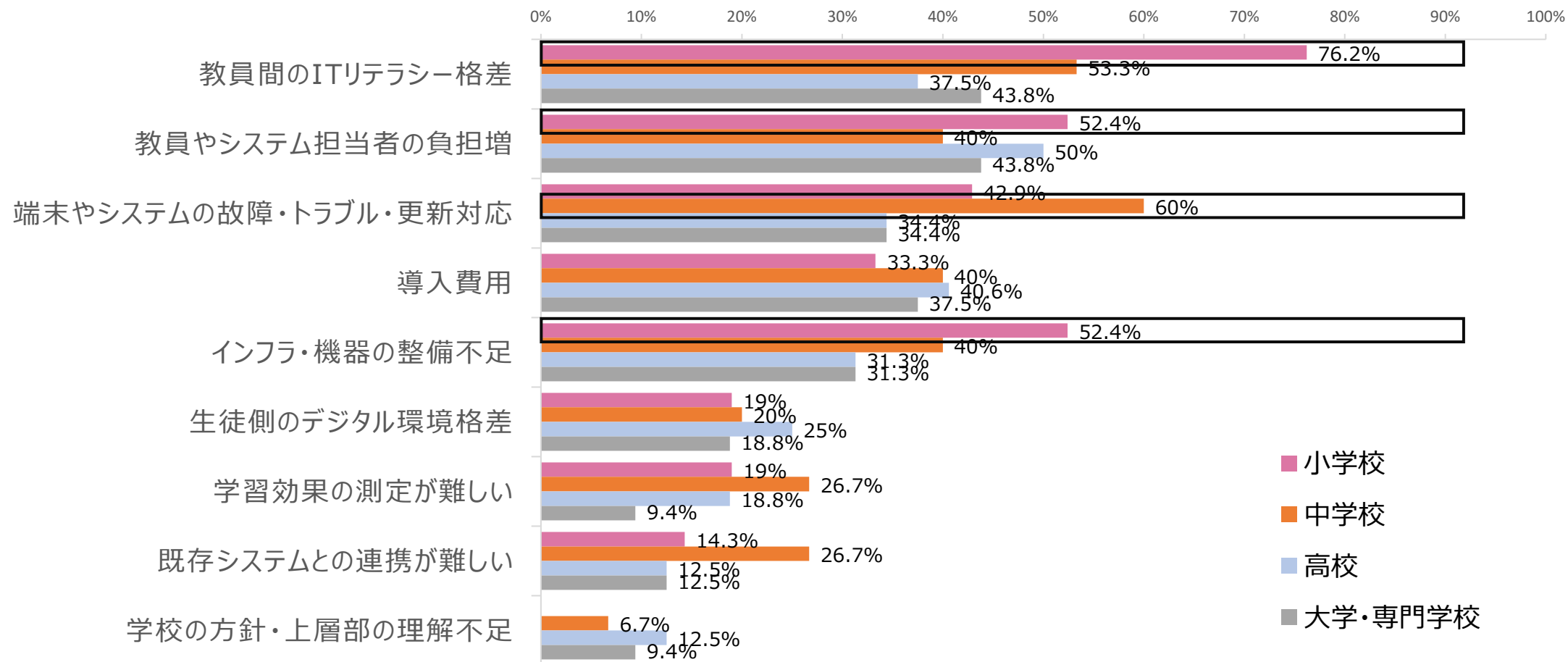


Q：教育DX推進の課題は何ですか？（複数回答） n=100

調査結果

9-1. DX推進の課題 学校種別

教員リテラシー格差・負担増・インフラ不足は小学校、端末トラブル・更新は中学校に多く、いずれも早期対策が必要。

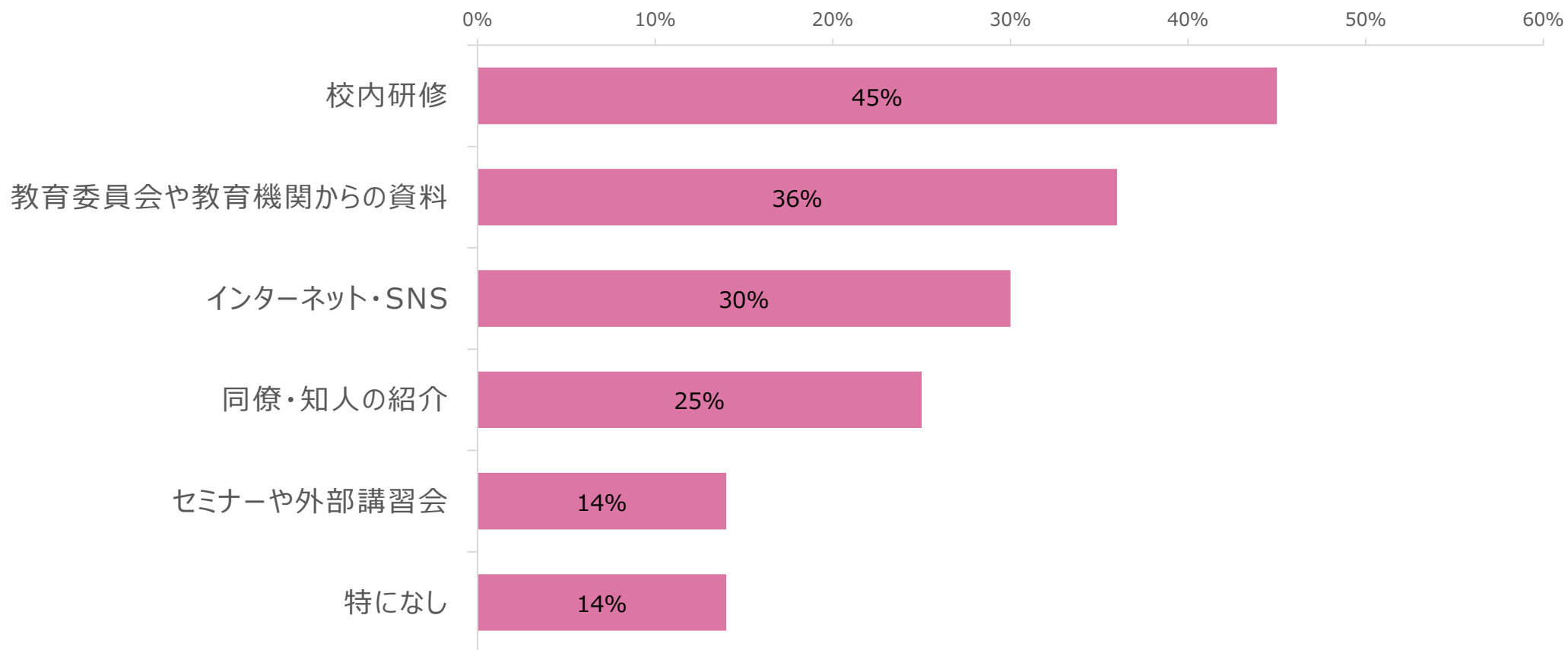


Q：教育DX推進の課題は何ですか？（複数回答） n=100

調査結果

10. 教育DXに関する情報源

情報源トップは校内研修（45%）、教育委員会等（36%）が中心。

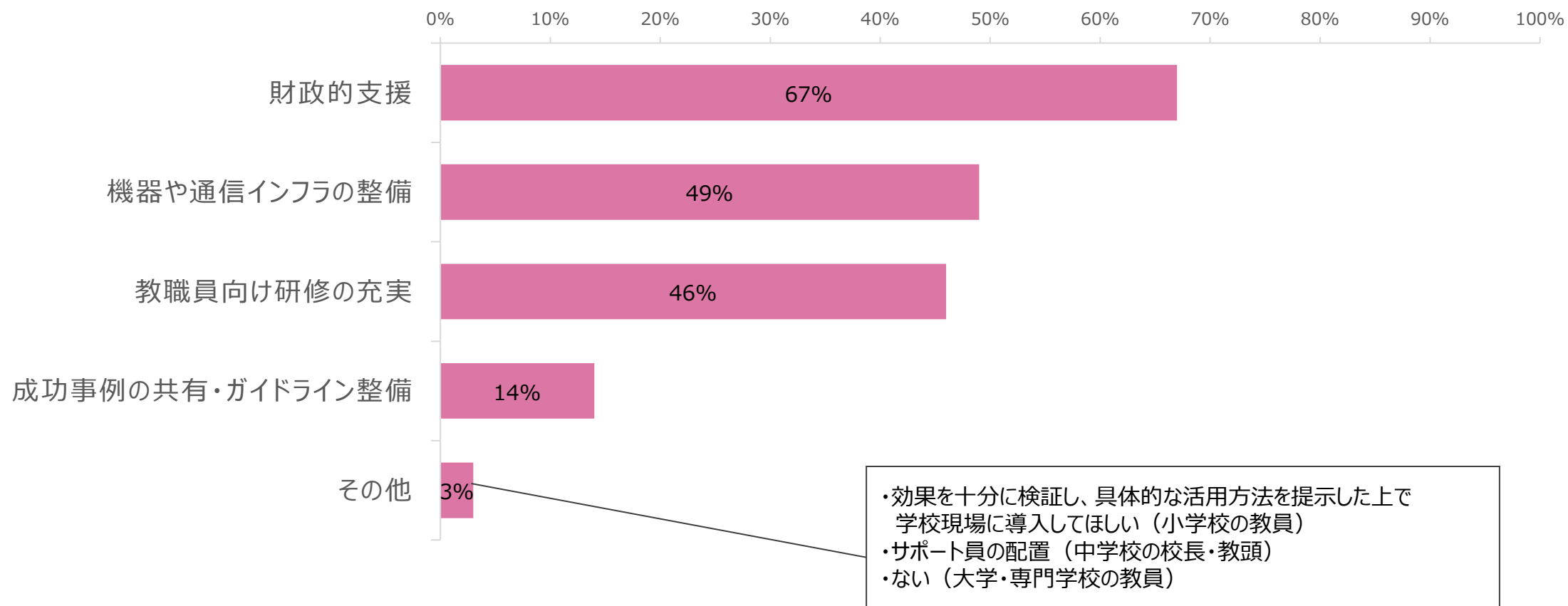


Q：教育DX推進の課題は何ですか？（複数回答） n=100

調査結果

11. 国・自治体への要望

国・自治体への要望トップは財政的支援（67%）。インフラ整備や教員向け研修など継続的な支援も求められている。



Q：教育DX推進のために国や自治体にもとめる支援は何ですか？（複数回答） n=100

調査結果

12. 自由記述（効果と今後の目標）

- ペーパーレスで**紙連絡の不達が改善**（小学校／教員）
- 一定の環境整備は整いつつあり、一年生からiPadの活用が当たり前になってきた。**個別最適な学習には効果**が出てきているが、今後は**対話的学習への活用**が課題。オクリンク等の有効的な活用が必要と思われる（小学校／校長・教頭）
- 事例の共有（小学校／校長・教頭）
- 何でもかんでもDXがよいわけではない。学習定着は紙に手で書いた方が高いとも言われている。その辺りを見極め、**紙の方がよいものデジタルの方がよいものを明確**にしてほしい（小学校／教員）
- 思いきって改革を進めたい（小学校／校長・教頭）
- 効率化を進めたい（中学校／教員）
- リモートワークができるように（高校／教員）

- **業務効率化により超過勤務が解消**し、教員から効率化に関する提案も増加（高校／校長・教頭）
- 最低点のDX化は行われている。**より効果的で効率的な運用を模索**したい（大学・専門学校／教員）
- **生成AIを教育現場で有効活用**（大学・専門学校／教員）
- **AIを活用した取り組みを全学**に広げたい（大学・専門学校／教員）
- オンライン講義だけでは力はないので対面講義が重要だが、資料配布についてはオンラインでできるのはよい（大学・専門学校／教員）
- 積極的に推し進めて行くべき（大学・専門学校／教員）
- 進めていきたい（大学・専門学校／教員）
- 何とかついていけるように頑張ります（大学・専門学校／教員）

Q：教育DXについて現在の取り組みや課題、今後の抱負を自由にご記入ください。有効回答数76

調査結果

12. 自由記述（運用に関する課題・要望）

- 教育効果を十分に検証し、**活用方法を明示したマニュアル**を添付した上で学校現場に導入してほしい（小学校／教員）
- 業務の効率化どころか**かえって煩雑**になり時間をとられている（小学校／教員）
- 新しいものを増やすならば、既存の不要なものは排除しないと現場はモノであふれかえってしまう（中学校／事務職員）
- 人としての会話が欠けている（中学校／教員）
- **時間がない**（高校／教員）
- 教員の仕事の引き算も考えてほしい（高校／教員）
- 生徒の所見をAIで作成するなど教育の情熱や愛情が欠けている教員がいる（高校／教員）

- かえって業務過多にならないように（大学・専門学校／教員）
- DXにはそぐわない点があることを認識すべき（大学・専門学校／教員）
- 効率化には効果的だが**教育の質に関しては人の目が必要**（大学・専門学校／事務職員）
- **教員の業務が多すぎる**。簡素化してほしい（大学・専門学校／教員）
- **学生からの機器トラブル申告**が多く（特に課題の締切間際）真偽判断が難しい（大学・専門学校／教員）
- 教育の質向上はかなり難しい（大学・専門学校／教員）
- まだ途上、あと5年かかりそう（大学・専門学校／教員）
- やめるべき（大学・専門学校／教員）

Q：教育DXについて現在の取り組みや課題、今後の抱負を自由にご記入ください。有効回答数76

調査結果

12. 自由記述（人材・スキルに関する課題・要望）

- **教員のレベルアップ**（小学校／教員）
- 教員間で差があるため、それを縮めたい（小学校／教員）
- **教員間格差の解消**（中学校／教員）
- ついていけない教職員が多い（中学校／校長・教頭）
- **使えないという教員の意識改革**が必要（中学校／校長・教頭）
- 教員の意識改革（高校／校長・教頭）
- 教員がなかなか使いこなせない（高校／教員）
- 若手を中心に取り組み、ベテラン、年配者、古い考えの排除（高校／事務職員）

- **ICTツールがたくさんあり、使いこなせていない**（高校／教員）
- 一部教員のみが理解しており、情報格差や知識格差（高校／教員）
- 教員間の格差が生徒へのアプローチの差につながるため、一律のレベルアップが必要。形に残らないデジタル処理の増加に伴い、**ミスや不備発生時の確認や責任の所在についてもガイドライン**がほしい（高校／教員）
- 教員間の格差が激しい（大学・専門学校／教員）
- 取り組みれば効果は高いが、経営陣が投資に消極的で、出欠管理がいまだに手作業。彼らの意識が変わらない限りDX推進は難しいと思う（大学・専門学校／教員）

Q：教育DXについて現在の取り組みや課題、今後の抱負を自由にご記入ください。有効回答数76

調査結果

12. 自由記述（予算に関する課題・要望）

- 教員間のデジタル格差や**自治体の財政状況によって導入に差**が出てしまうこと（小学校／教員）
- 経済的支援も視野に入れるべき（中学校／事務職員）
- **機器更新の予算不足**（高校／教員）
- 生徒の端末を揃えること（高校／教員）
- 中途半端は逆効果なので先端を走る必要がある。そのためには**国からの補助が必須**（大学・専門学校／教員）
- 年々財政が厳しくなっているので、予算確保が課題（大学・専門学校／事務職員）
- 部署によってインフラ整備の予算がおりなかったりで格差が生まれている（大学・専門学校／事務職員）

- 費用負担（大学・専門学校／教員）
- 導入費用が高く成果の可視化が難しい（大学・専門学校／事務職員）
- 学内の財政的な問題への支援と、教員業務の繁忙化への軽減措置の必要性（大学・専門学校／教員）

調査結果

12. 自由記述（インフラ・機器に関する課題・要望）

- セキュリティの壁が高く、より効率的な仕様にならない（小学校／教員）
- **とにかくインフラが追いついていない。**まず予算ありきなので、機能よりも価格が優先で検討がされてしまう（中学校／校長・教頭）
- **バージョンアップした時の対応**（中学校／教員）
- みんなが使いやすい環境（中学校／教員）

- **より良いIT環境のインフラ整備と教育アプリの充実**（高校／教員）
- インフラの整備（高校／教員）
- **自治体が積極的に進めて欲しい**（高校／教員）
- 接続スピードが満足できるようにしてほしい（高校／教員）

初等・中等・高等教育における教育DXの現状と課題に関する調査報告書

デジタル・ナレッジ 調査



2025年9月発行

発行元：株式会社デジタル・ナレッジ「eラーニング戦略研究所」

〒110-0005 東京都台東区上野5丁目3番4号 eラーニング・ラボ 秋葉原

Tel. 03-5846-2131／Fax. 03-5846-2132

<https://www.digital-knowledge.co.jp/>

(禁無断転載・転用・複写)